

事後評価書

事業名	湛水防除事業伊曾島北部地区		事業区分	室名	農業基盤室
事業概要	工期 (下段 当初)	平成2年～平成14年	全体事業費 (下段当初)	3,266百万円(負担率:国55:県30:市(町)15)	
		平成2年～平成14年		3,385百万円(負担率:国55:県30:市(町)15)	
事業目的及び内容		<p>【事業目的】 本地区は、木曾川と長良川に挟まれた河口部に位置する輪中地域で、海拔-2.0～-0.5mの低湿地帯です。本地区の排水は全て機械排水に依存していますが、近年の地盤沈下、開発等による流出量の増加と老朽化により既設排水機的能力不足を生じ、水稻及び畑作物に度々湛水被害が発生していました。特に地盤沈下は、昭和36年度以降1.5mに及びこの結果、洪水時には長島川舟溜りへのポンプ排水が困難となってきていました。この為、葎ヶ須地区と大島地区の排水機を改修し、排水機能を回復させるとともに、排水樋管を長良川へ接続し、恒久的な排水対策を行ないました。また円滑な排水管理を行なうため、長島町全域の排水機場8ヶ所の排水管理システムの整備を行い、農業経営の基盤の確立と土地の高度利用を図りました。</p> <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葎ヶ須排水機場 <ul style="list-style-type: none"> 機械工 φ1,000 ×1台、除塵機×1基 機場工 1箇所 樋管工 L=57m ・大島排水機場 <ul style="list-style-type: none"> 機械工 φ1,350 ×1台、除塵機×1基 機場工 1箇所 樋管工 L=339m ・排水路工 L=766m ・排水管理施設整備工 1式 			
1・事業の効果		<p>『直接的効果』</p> <p>【費用対効果分析】</p> <p>計画当初の投資効率=1.20 完了後現在の投資効率 =1.14</p> <p>【効果の減少理由】</p> <p>受益農地面積の減少(約1割)と作物単価の減少。</p> <p>【効果の検証】</p> <p>アンケート結果(Q5)から、事業完了後の降雨に対しましては、ほぼ被害がありませんでした。 計画:3日間連続雨量300mm 実績:79mm(H15) 222mm(H16) 132mm(H17) 160mm(H18) 181mm(H19) 92mm(H20)</p> <p>【定量化できない効果】</p> <p>アンケート結果(Q10)から「大雨時でも安全・安心感が増した」と心理的効果の発揮。</p> <p>【施設の管理状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長島町土地改良区により排水施設は適切に管理されています。しかしアンケート結果(Q12)によると、排水路については、ゴミ、ヘドロなど少し問題があるようです。 ・事業で集中管理システムを導入したことにより、常時の排水管理に省力化が図られ、夜間降雨時等での操作が効率的かつ安全に行われています。 <p>『間接的効果』</p> <p>【良い影響】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果(Q11)より、水路が美しくなりゴミを捨てる人がなくなった。 <p>【悪い影響】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果(Q11)より、護岸に雑草が茂り、ゴミを捨てられ困っている。 ・アンケート結果(Q10)より、舟溜りに影響がある。 			
2・事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化		<ul style="list-style-type: none"> ・事業着手当時は希少生物等の調査は行ないませんでした。また、事業実施中も特に配慮を行っていません。 ・アンケート結果(Q11)から、概ね環境への影響はなかったとの回答をいただいておりますが、自然環境、生活環境、景観に対して悪くなったとの回答が10件程度ありました。 			

3・事業を巡る社会経済情勢等の変化

平成16年12月に旧桑名市、旧多度町と合併し桑名市となりました。第2名神伊勢湾岸線の開通、県内有数のレジャー施設の拡大など、名古屋圏に近い利便性から宅地化が進んでいます。しかし大消費地に近いことから、温暖な気候を利用した早場米、促成栽培のトマト、花卉、露地植えのナバナなどの生産が盛んです。地盤沈下については、鈍化傾向です。

4・県民の意見

○アンケート調査内容 排水機場を更新した4地区（大島地区、駒江地区、葎ヶ須、鎌ヶ地地区）の住民197戸に対して配布しました。質問事項は1.居住地 2.事業の認知度 3.整備施設の認知度 4.営農状況 5.農地被害の有無 6.農地被害の程度 7.農業施設被害の程度 8.農業面での効果 9.住居被害の有無 10.農業面以外の効果 11.周辺環境への影響 12.その他の意見 の12項目です。

○調査結果

農家30戸、非農家134戸、不明3戸の167戸から返信がありました。（回収率85％）

- ・ Q2.事業の認知度は、63％と非農家の方が多く高い認知度でした。
- ・ Q3.施設の認知度も排水機場を基本として比較的認知されています。
- ・ Q5.過去5年間の農地冠水状況については、2戸の方から冠水したとの回答がありました。
- ・ Q6.具体的な作物被害状況では、1戸の方がH14年に冬野菜の大根での被害があったとの回答でした。
- ・ Q7.農業施設への被害につきましては、記入された方はみえませんでした。
- ・ Q8.農業面での効果は、良くなったと全体の1割程度の方が回答いただいています。が、「ポンプの運転停止により水の動きが大きく、支線水路の土が流れて土手が壊れる」と1戸の方から悪くなったと回答がありました。
- ・ Q9.住居への被害につきましては、1戸の方からあったと回答がありましたが、平成12年の東海豪雨の際の道路の冠水被害でした。
- ・ Q10.農業以外の効果につきましては、「安全・安心感が増した」「排水が良くなった」と良い効果を多く答えていただきましたが、「排水のし過ぎで地盤が変わる」「舟溜への逆流やよどみ」「水門外水深が浅くなり船の航行への障害」などの悪影響の記述が4件ありました。
- ・ Q11.周辺環境への影響につきましては、「水路が美しくなりゴミを捨てる人がなくなった」「水がきれいになった」と良い影響を記入される方と、「護岸草が茂りゴミを捨てられ困る」「浄化作用がなくなった」「魚が釣れない」「景観に影響あり」「地下水質が悪くなった」などの悪い影響の指摘もありました。
- ・ Q12.ではその他の意見を聞きました。湛水防除事業の必要性を十分理解していただいた上で、評価をいただいた意見には勇気付けられました。しかし、騒音、悪臭など近辺の方々にご迷惑を掛けていることもわかりました。

○まとめ 「ポンプ能力が向上し、排水が良くなった」「大雨時でも安全・安心感がました」「環境への大きな影響はない」「直接排水が可能となったが、舟溜への影響はあった」と概ね事業は評価していただいていると判断します。

5・今後の課題等

○ 事業実施における課題

- a. 近年、ゲリラ的集中豪雨が多い。
- b. ポンプ場の周辺環境への影響が生じる。
- c. 周辺の方への説明責任と意見交換が必要。

○ 課題への対応方針(改善措置)

- a. 短期間の集中豪雨を十分勘案して、事業計画を策定する。
- b. 排水機場周辺の環境への影響を事前に想定し、最小限となるよう配慮を行う。
- c. 事業計画時、実施時には周辺の方への説明と意見交換を行う。